

2026 年 9 月 吉日

各位

岡山大学農学部同窓会関西支部会第 3 回総会開催のお知らせ

晩夏の候、同窓会関係者の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。
標記の件、下記要項にて開催致しますのでご案内申し上げます。

なお、本年もアラムナイ第 6 回関西支部総会と同日開催と致します。

記

日時；2026 年 10 月 25 日(日)12:00～14:30

＊11:00～11:30 アラムナイ関西支部長・保 智己氏 (S54[1979]年理学部・生物学科卒) の講演があります、自由参加です。

演題；ウナギじゃないのにヤツメウナギ？

～古代から生き残る不思議な魚の正体～

場所；KKR ホテル大阪 2F 星華の間

会費：¥8,000— (当日会場にて徴収致します)

内容；裏面をご参照下さい。

＊総会および懇親会の受付は、11:30～

関西地区にご在住の、卒業生、大学院修了生、旧職員および関係各位の皆様、お誘いあわせの上、ご参集下さい。

なお、誠に失礼ながら、**ご参加いただける方のみ**、10 月 17 日(土)までに、
E-mail:nishikawatetsu@gmail.com までご連絡下さい。

＊10 月 18 日 (日) 以降のキャンセルは料金が発生します。

本件に関してのお問い合わせは、

代表幹事 西川 哲 昭和 52 年(1977)畜産学科卒

までお願い致します。

以上

2026 年 9 月 吉日

第 6 回アラムナイ関西支部総会/農学部関西支部第 3 回総会式次第

11:00～講演会(自由参加)

アラムナイ関西支部支部長 保 智己氏(奈良女子大学名誉教授)

演題；ウナギじゃないのにヤツメウナギ？

～古代から生き残る不思議な魚の正体～

11:30～総会・懇親会受付

12:00～総会開会

- ・保支部長挨拶

- ・会務報告 会計報告、2025 年度活動報告および 2026 年度活動予定

12:15～懇親会開宴

- ・学生歌斉唱

- ・来賓紹介

- ・乾杯の音頭

12:30～那須学長のご挨拶および岡山大学の近況報告

12:45 ・歓食・歓談

13:45 ・各学部同窓会の近況報告

14:00 ・桂阿か枝(岸本浩一)氏 1995 年(H8 年)

農学部環境資源学コース卒業の落語一席

演目；お血脈

14:15 ・閉会の挨拶と 2027 年度総会の予告

- ・集合写真撮影

* 終了後、農学部関係者のみで総会・懇親会を開催致します。

以上

ウナギじゃないのにヤツメウナギ？ ～古代から生き残る不思議な魚の正体～

奈良女子大学名誉教授 保 智己

ヤツメウナギというと「ウナギの仲間」と思われがちですが、ウナギとは全く異なる動物です。この仲間は現存する最も原始的な脊椎動物で、大きなくくりでは「魚類」になりますが、体中に硬い骨はありません。また、一番大きく違うことは顎がありません。ですから、「無顎類」というグループに属します。無顎類は古生代に繁栄したグループですが、現在では「ヤツメウナギ」と「ヌタウナギ」の2つのグループだけになっています。ヤツメウナギはここから生息していたようで、古生代の地層から今とほとんど同じ形態をした化石が見つかっています。顎が無いので、口は上下に開くことはなく、丸い形をしています。そのため、円口類と呼ばれることもあります。

【名前の由来】

ヤツメウナギがどうして「八目」と名付けられたかと言いますと、決して8つ眼があるわけではありません。本当の眼の後ろ（尾部側）に並んで7つの鰓孔があります。左右に8対「眼」のようなものがあるので、「八目」、そして、細長くて、体系が一見するとウナギにも見えるので「八目鰻」といったようです。名前で興味深いことは、ドイツ語では“Neunaugen”といいます。“Neun”は「9」で“Augen”は「眼」を意味します。つまり、ドイツ語では「八目」ではなく、「九目」ということになります。

【ヤツメウナギの一生】

ヤツメウナギは独特な生活史を持っています。それは幼生期があり、「変態」して、成体になることです。変態する動物は他にもいますが、ヤツメウナギの幼生はかつて別の種類の動物として学名がつけられていました。その時の属名が未だに幼生を示す名前として使われています。ヤツメウナギの幼生は「アモシーテス (*ammocoetes*) 」と呼ばれています。別の動物だと扱われて仕方がないくらい形態が異なります。最も異なる点は眼です。成体では前述したようにもちろん眼があります。しかし、幼生では眼は外観からでは確認できません。眼は皮下に埋没しており、未発達の状態で存在し、変態によって完成します。ヤツメウナギはこの幼生期が4、5年続きます。そして、春または秋に変態し、成体になります。

【料理？】

最後に気になるのは「味」だと思います。かつては、夜盲症に効くということで漢方薬として食されていたことがあったようです。実際のところビタミンAが豊富にあります。また、最近ではビタミンAだけでなく、DHA（ドコサヘキサエン酸）やEPA（エイコサペンタエン酸）、DPA（ドコサペンタエン酸）といった最近話題の成分も多く含まれているそうです。ヨーロッパでも様々な国で食用にされています。肝心の「味」については個人的な見解ですので、文字に起こすことはやめておきます。講演で個人的感想を述べさせていただきます。

プロフィール

1975年に岡山大学理学部生物学会入学、その後大学院修士課程に進学し、臨海実験所でヒトデの眼を研究対象にしていました。修了後浜松医科大学博士課程に進学（当時は岡山大学に博士課程はありませんでした）。浜松医大でヤツメウナギに出会いました。学位取得後、浜松医大で助手、その後奈良女子大学に移り、助教授（後に准教授に職名変更）、教授を経て、2022年3月に退職しました。専門は動物生理学、特に動物の光感覚に関する研究を行ってきました。一番多く研究に費やしたのは松果体の光感覚機能に関する研究です。ヤツメウナギは私を松果体研究に引きずり込んだ動物です。